

第15号

はらんきょう レポート

はらんきょうの会

<http://harankyonokai.com>

私たちは一人ひとりの人権が尊重される平和な社会を目指して活動しています。



次世代と共に

1998年夏、「この子たちの夏」を上演する会による朗読劇「この子たちの夏ー1945・ヒロシマ ナガサキ」第1回自主公演がイル・ブリランテで行われた。(第1回上演後はらんきょうの会と名称変更)当時、広島・長崎から遠く離れた地方の小さな町(旧明野町)で30代40代の女性たちが中心となり取り組んだ公演に、様々な反響があった。その後10年間「この子たちの夏」の自主公演に取り組んだ。

そして2008年から、毎年内容を変えはらんきょうの会オリジナルの台本「あの夏の日の記憶 ヒロシマ ナガサキ そして」での公演となったが、ここまで長く続けるとは当初は思ってもいなかった。毎回精一杯の思いでヒロシマ・ナガサキを伝え続け、振り返ってみると今年19回目の公演、となっていたのである。

当初からのメンバーも当然年を重ね、今や50代60代。しかし第1回公演から子ども・若者たちの参加を積極的に進めたこともあってか、毎回朗読そしてスタッフに多くの若者が関わっている。

さらに、そうした若者たちが自分たち自身のグループを立上げ、ヒロシマ・ナガサキを語り継ぐ活動に取り組むようになった。若い世代へのバトンタッチが少しずつ実現している。種まき世代としてはこうした小さな芽をしっかりと見守っていききたいと思う。

ところで来年は第20回公演になる。幸いはらんきょうの会のメンバーは10代から70代と幅広い。20回公演を機に様々な年代からの意見・発想等を活かしヒロシマ・ナガサキをどのように伝えていくか、伝えられるか、もう一度原点に立ち返って考えてみたい。そして来年の公演は新たな一步の舞台になるようにと思っている。ご期待ください。(加藤 記)

若い声

朗読劇に参加して

小学5年生 橋本 連奈

今年は、長崎で被爆した荻野美智子さん(当時10歳)の手記を朗読する。

聞きなれない言葉が出てくると、そのつど加藤さんがぶ厚い本を持ってきて、熱心に説明してくれる。読み方は、武井さんが正しく指導してくれる。

戦争を全く知らない私だけれど、その時の想いを伝えるために、いっしょうけんめい練習を重ねている。

二度と、国と国との争いが起きないように願いながら、朗読を通して伝えていきたい。



高校3年生 鶴見 眞旺

私は、小学5年生の時から7年間「はらんきょうの会」の朗読劇に参加してきた。

朗読劇に初めて参加した時は、来場者に分かりやすく伝えられるか不安だったが、年々その不安はなくなり自信を持って読めるようになった。学校の授業では、戦争についてはざっくりと教えてもらったが、朗読劇では学校とは違い、実際に体験した方々の手記には生々しい被ばくの事実が記されていた。今でもその事実を知った時の驚きには慣れない。

戦後70年が過ぎ、戦争を体験した人が少なくなってきた今日、この辛い体験をした人たちの想いを、戦争を知らない人々へ伝える活動は、今を生きている私たちの使命ではないのかと思っている。



東京で合同朗読祭

ヒロシマ、ナガサキから70年、そしてフクシマ、 想いをつなぎ 平和を考える

2015. 8. 25(土)

YMCAアジア青少年センター (東京・水道橋)

つくば市在住の作家鶴文乃さんの呼びかけで、想いを未来につなぐ朗読の会(つくば市)、永遠の会(長崎市)、8月を語りつぐ日野(日野市)、麦わらぼうしの会(柏市)、そしてはらんきょうの会の5団体による朗読祭が実現した。各団体それぞれ「ヒロシマ・ナガサキは私たち一人一人の問題」と考え長年活動を続けている。

さて、都心での開催でどれだけの人に参加してくれるか不安もあったが250席の会場も満席となり、はらんきょうの会は「あの夏の日の記憶」から若者中心の朗読構成で舞台に立った。

来場者の「戦争がどのようなことなのか、今は当たり前のような平和がどのように大切なのか知りたくて、聴きにきました。様々な人の体



験記を通して、戦争を知ることができ、平和についても考えることができ、とても貴重な時間でした。知ることはとても大切だと思いました。」(30代・女性)という声を聞き、これまでの準備の苦勞も吹き飛んだ。(加藤 記)

今日の消費者問題

～消費者市民をめざして～

2015年12月13日(日)

アルテリオ

昨今、少子高齢化に伴いさまざまな消費トラブルが多発していることから、NPO消費者市民ネット21代表理事の酒井はるみさんと理事の田山知賀子さんを迎え、セミナーを開催した。

まず酒井さんより、主体的に行動する消費者市民について、そして田山さんからは、事例をあげながら下記のようなお話をいただいた。

(当日の資料より)

・消費者問題とは

- ① モノやサービスの質や安全性 ② 表示
③ 価格や広告 ④ 契約 ⑤ 環境に負荷

・主な消費者問題の歴史

- 1955年 森永ヒ素ミルク事件
1960年 ニセ牛缶事件→この事件がきっかけで景品表示法ができた
1970年 カラーテレビ二重価格事件
1985年 豊田商事事件
1995年 こんにゃくゼリー死亡事件
2001年 ワン切り問題発生、牛肉BSE問題発生
2004年 オレオレ詐欺多発
2005年 悪質リフォーム事件
2008年 中国冷凍餃子事件→この事件がきっかけで消費者庁ができた
ウナギ偽装表示事件
2011年 東日本大震災便乗商法、屋根工事問題、放射性物質に対する不安広がる、スマホなどのサイトトラブル急増
2012年 サクラサイト商法の被害拡大
送り付け商法多発
2013年 カネボウ美白化粧品トラブル多発、ホテル・レストランなどの偽装表示
食材問題発生
2014年 振り込み詐欺・ニセ電話詐欺多発、アダルトや出会い系サイなどの架空請求詐欺多発

・消費者被害にあわないために

- ① 必要がない時はきっぱり断る(訪問販売、電話勧誘)
② 電話や文書で身に覚えがないお金を請求されたら振り込め詐欺と疑う。警察や消費生活センターに相談する
③ クーリングオフ制度を利用する
④ 通信販売はクーリングオフ制度の適用がない
⑤ 個人情報はおやみに教えない
⑥ トラブルや不信を感じたら消費生活センターに相談する
⑦ 休日は消費者ホットライン188に電話相談

・消費者市民とは

- ① 保護される消費者から自立した消費者となる
② 消費者の権利と責任を知る行動する消費者となる
③ 消費行動は投票行動でもある。自ら考え選択し行動する
④ 自らが消費者行動を通して持続可能な社会の形成に参画する



講演内容のなかには、実際に消費者の方々から寄せられた相談事例の紹介があり、グローバル化が進んだ現代では誰もがトラブルに巻き込まれるリスクが多くなっていると感じた。そしてネットゲームなどによる被害が、子供たちにも及んでいることがわかった。このことから消費者問題の教育を幼児期、小学校、中学校からやっていく必要があると強く感じた。自分の身は自分で守る。トラブルに巻き込まれない賢い消費者市民になろうではありませんか。

(野澤 記)

★映画「何を怖れる」 試写会&上野千鶴子さんのトーク

2015年11月1日(日)
筑西市立中央図書館



はらんきょうの会は、2000年から女性の人権についても考えるようになり活動している。それから遡る事30年。70年代初頭に、己の生きにくさにもがき、社会に向かい「NO」と叫び、その後もフェミニズムを生きてきた女たちがいることを知った。彼女たちは、男社会から疎まれ、女たちから冷ややかな視線を浴びても、自らを「フェミニスト」と名乗り、社会と闘ってきた人たちだった。彼女たちの人生と仕事が、社会に果たした役割の大きさを是非、多くの方に知ってもらおうと今回の企画となった。

2014年12月、WAN（認定NPO法人ウィメンズアクションネットワーク）より「フェミニズムの交差点ファンド」助成事業 ドキュメンタリー映画「何を怖れる～フェミニズムを生きてきた女たち～」試写会キャンペーンの交付決定通知を受け取った。まさか・・・と思った。なぜなら、交付の枠は一県に一団体だったからだ。そこで、せっかくの機会だから「参加者それぞれの思いを語り合える時間も持ちたい」と、大胆にも上野千鶴子さんにお越しいただこうという話になった。担当者の熱心な交渉の結果、トークを含めて11月1日に実現する運びとなった。

たくさんの方に参加していただきたかったが、会場の収容人数が120名なので事前申し込み制にした。予想を上回る申し込みがあり、申し込み開始一週間で定員に達した。

試写会を見た方からは、「同じ時代を生きてきた彼女たちの熱い思いがひしひし伝わってき

た。多くの女性たちの戦いのおかげで今がある。課題の多い中で今を生きる方向性を示してもらった」等の感想をいただいた。

上野千鶴子さんのトークは、「歯切れがよく、わかりやすい」と大変好評であった。お話は、現政権の問題点、労働崩壊、女性活躍？ 怒りかたを知らない女性の話など幅広く、興味深い楽しい時間となった。



上野千鶴子さんもとても楽しみにしていたという参加者との意見交換の時間は、初めの頃こそ少し間があったが、上野さんの大ファンだという女性の話の皮切りに10代の女子から母娘、年配の男性まで何人もの方が参加し、質問やら現在の思いの丈などを語り、多少の緊張感はあるものの和やかな時間となった。特に、10代の女子学生が生きづらさの壁に悩んでいる話には、いまだにある見えない壁の厚さを感じた。上野さんは、その思いにとっても共感してくださり、包容力のある励ましもあった。

個人的には、トークの後の女子学生の笑顔が今回の企画の何よりの成果かなと思った。また「フェミニストたちの人生」を境にして、自分を客観的にみることができた。知らず知らずに男性社会の価値観に巻き込まれて、「誰もめたくない、嫌われたくない、私に何かを変える力などない」という「怖れ」があるからだと感じかせてもらい、映画のタイトルに納得した。

(中野 記)

<アンケート>から

映画感想

- * ほとんど何も知らずに誘われて参加したが、映画を見ているうちにどんどん引き込まれて、おもしろくなっていた。が、今までの私には考えたこともないようなことばかりで…こんなに強く自分たちの思いを社会に訴えていた女性たちがいたから、今の社会は少し生き易くなったのかなあ～(40代女性)
- * 女性差別の解消にむけての道筋を知った。多くの人たちの努力を知った。弱者への想像力が大切。「思いやり」ってそうなんだなと思った。(60代男性)
- * ちょっと長かったです、とっても良かったです。見終わって、一緒に来た5人と、自分たちもこれから何かして行こうと話合いました。勇気をもらった気がします。ありがとうございました。(70代女性)
- * 女性、人間としてどうこれから生きていくのかももう一度考えなおしてみたい。若者たちが、これからのことを考えていく為に若い人に見てほしかった。(60代女性)
- * 出演者が豪華でまた大変面白い話ばかりだった。日本の女性史を当事者の語りで聞くことができてよかった。(20代)
- * 女性問題といってもいろいろな分野に広がっていることが分かってよかった。私が知ら

ない昔の活動の歴史も振り返り知ることができて良い経験ができた。(10代女性)

- * 課題の多い日本の中で…。今を生きる方向性を示してくれている。(70代男性)
- * ドキュメンタリー映画ということでリアルな声を聞いて良かったです。考えさせられました。上野さんの本も読んでみます。(30代女性)

トーク感想

- * テーマは少し難しそうだったが、話し方がとても興味をひきとてもおもしろかった。また、独特の例えでとても分かりやすく私でも理解できた。新聞やニュースで話題になっている問題がよく分かっていなかったが、今回の講演で少し分かった気がする。(10代女性)
- * 穏やかな話し方の中に、強い闘志を感じました。70年代ウーマンリブの活動に対してはよい感情を持っていませんでしたが、今回のご講演を機に自分に出来ることはないかと思えるようになりました。ありがとうございました。(60代女性)
- * とても分かり易い、内容の深いお話でした。会場からの声、そのやり取り、本当に素晴らしいついででした。(80代女性)
- * 「機嫌良く過ごす」・「素敵な年のとり方をしている人たち」etc. ・すばらしい言葉がたくさんありました。ありがとうございました。(60代男性)

第6回 2015年度 地域再生大賞優秀賞を受賞

地域再生大賞は、全国の地方新聞45紙と共同通信社が地域の再生・活性化のモデルとなる活動を続ける団体を表彰するもので、はらんきょうの会はこの度優秀賞をいただいた。2月19日都市センターホテル(東京)で表彰式が行われ、全国各地から団体の代表、関係者等約180人が出席した。選考委員の大桃美代子さんらの講評の後、団体代表一人ひとりに表彰状と記念品が手渡された。

これまではらんきょうの会を応援してくださった皆さん、ありがとうございました。ご支援のおかげでこれまで活動を続けることができま

した。

私達の活動も19年目に入りましたが、牛歩ながら確かな一歩を積み重ねていこうと思います。今後ともご支援よろしくお願いします。

(加藤 記)



研修報告

WANシンポジウム2016

2016年5月21日(土)
城西国際大学

WAN(認定NPO法人ウィメンズアクションネットワーク)主催シンポジウムに参加した。

ディーセント・ワーク(働きがいのある人間らしい仕事)を実現するためにはどのような取り組みをしていくべきなのかを考え、発信し、アクションへとどのようにつなげるかを参加者全員で考えようと開催され、全国から約180名の参加者があった。

まず、新潟、名古屋、横浜の若い世代のグループによるディーセント・ワークについて研究報告があった。彼女たちの働く現場からの声として、「自分の時間を自分のものに! 私たちは自分の時間を生きる」「管理職が変われば、部下も変わる」「誰のことも踏まないで働く」等等。

上記の研究事例報告について、パネリストがそれぞれ「非正規労働者の低賃金、さらに正規労働者の働き方もひどくなっている」「同一価値労働同一賃金」「労働者がつながり声を出す」「仕事で死んではならない・・・」等のコメント。

その後、グループワークでは参加者全員が4人1グループに分かれ、「人間らしく、働きたい! ディーセント・ワーク宣言」に盛り込むキーワードとして優先課題24項目を検討し、「オトコ社会のルールにNO!」を選んだ。

最後に上野千鶴子WAN理事長は、今後に向けて「社会に関わるということは、自分の行動・言葉に責任をもつことだ」と締めくくった。

これから私たちは、職場でも家庭でもはっきりと自分の意見が言える環境をつくり、自分らしく働き、生活していくことが大切なのだと思う。(堤 記)

介護保険について

～おばちゃんケアマネ見聞記～

2016年5月28日(土)
明野公民館研修室

私達のメンバーでもあり、介護支援専門員(ケアマネージャー)の清水ひさえさんを講師に介護保険の利用手続き、どのようなサービスが受けられるかを事例を通して学んだ。

介護が必要になった時、家族だけで世話をしていくのはとても大変なことだ。老老介護や親の介護に疲れて自分を見失わないよう、介護保険制度を利用することがお互いのためだということだ。

介護保険の利用手続きは、まず、役所の窓口で本人が申請するが、家族やその他ケアマネージャーなどに代理申請してもらうこともできる。申請すると、調査員が利用者の心身の状態を調査する。申請書には主治医を記入する欄があるので、かかりつけ医がいるとよいそうだ。そして、コンピュータによる一次判定、介護認定審査会による二次判定後結果がでるが、申請から認定されるまでに30日ぐらいかかるという。

審査の結果は、その状態により要支援1、2、要介護1から5の区分で認定される。要支援者は地域包括支援センター、要介護者は居宅介護支援事業者で受けられるサービスのケアプランを作成してもらう。100人いれば100の事例があり、要介護度に応じて利用できるサービスや介護保険で認められる月々の利用限度額などが異なるので、ケアマネージャーとよく相談することが大切だということだ。

夫が定年を迎え老後が現実になり、いつまで元気に生活していけるか、いつかは介護が必要になる時が来るのではないかと不安になっている今日この頃、タイムリーな研修であった。

(飯島久 記)

意識でカイカク。男女でサンカク。社会でヘンカク。

(内閣府 男女共同参画週間キャッチフレーズ)

はらんきょう版

「茨城弁で語る女性差別撤廃条約」出前公演

うしく男・女フォーラム2016

小さな「つながり」を大きな「ひろがり」へ
2016年1月23日(土)
牛久市中央生涯学習センター 文化ホール

いなしき女と男のハーモニーフォーラム

～ささえあい 平等の輪を明日へ～
2016年1月24日(日)
稲敷市あずま生涯学習センター 多目的ホール

はらんきょう版「茨城弁で語る女性差別撤廃条約」の出前公演を牛久市・稲敷市と2日間にわたり行った。(激務?!!)

牛久市では条約前文・第5条・第7条・第11条、その後会場との質疑応答、稲敷市では口上・前文・第5条・第6条・第7条・第11条・第16条を、私たちが日常生活で直面している問題に沿って茨城弁で語った。以下内容を簡単に紹介する。

口上 小玉スイカの里、日本一の神輿が練り歩く祇園祭、陶芸家板谷波山のふるさと等筑西市のPR&はらんきょうの会の活動紹介

前文 「世界の女性の憲法」といわれる女性差別撤廃条約を批准するために国際結婚に関わる国籍法を変え、男女雇用機会均等法制定さらに家庭科を男女共修とし・・・

第5条 役割に基づく偏見・慣行の撤廃
「女は内 男は外」意識が引き起こす「私の区長未遂事件」。地域の集落の役員改選時「私、区長やってもいいです」と名乗りをあげた女性とまわり男性の反応を軽妙な語りで・・・

第6条 売買・売春からの搾取の禁止
「・・・そのあざどうしたんで？」で始まる井戸端会議。DVは身体的暴力だけでなく精神的・経済的暴力等もあり殺人事件に至る場合も・・・

第7条 政治的・公的活動における平等
日本の女性の国会議員の割合は先進国どころかアジアの中でも最下位。地方議員もしかり。どうしてこんなに女性

議員が少ないのか、増やすにはどうしたら・・・。

第11条 雇用における差別の撤廃
一億総活躍・少子化というけれど、働く女性（今や女性だけではない）にとって厳しい現状。マタハラ・育休・保育所問題等「子どもを産みたくても無理」、正規非正規「男もつらいよ！」

第16条 婚姻・家族関係における差別の撤廃
昨年12月最高裁における夫婦同氏の合憲判断がでたけれど・・・。「結婚して苗字が変わった時、自分じゃねえような、今までの自分がなくなっちゃたみてえ気がして。それに仕事でも苗字が変わってやりづれえ～」この思いどうしたらいいの・・・!

牛久市では公演後、「女性の社会参加」に対する家族の意識の変化など会場参加者との質疑応答においてキャッチボールができた。

2日間にわたる出前公演において、表題、男・女の呼称や順列、副題に込められた思いで地域の取組や温度差をチョッピリ感じた。一人の意識の変化から家族へ社会へとつながるうねりを願う。(清水 記)



★ 活動記録 ★

《事業》

2015年

- 8月2日・朗読劇「あの夏の日の記憶」自主公演
イル・ブリランテ
- 8月29日・はらんきょうレポート第14号発行
ヒロシマ、ナガサキから70年、そしてフクシマ、想いをつなぎ平和を考える(合同朗読祭)
YMC Aアジア青少年センター
- 10月18日 朗読劇「あの夏の日の記憶」
出前公演 イル・ブリランテ
「平和を考える市民映画会」
(主催：筑西市)
- 11月1日 映画「何を怖れる」試写会&上野千鶴子さんのトーク
筑西市立中央図書館
- 11月14日 PRパネル出展 スピカ
筑西市男女共同参画推進講演会
- 11月29日 筑西市協働のまちづくりフォーラム2015 <活動発表> アルテリオ
- 12月13日 セミナー 今日の消費者問題
共催：筑西市 アルテリオ

2016年

- 1月23日 はらんきょう版「茨城弁で語る女性差別撤廃条約」出前公演
うしく男・女フォーラム2016
牛久市
- 1月24日 はらんきょう版「茨城弁で語る女性差別撤廃条約」出前公演
いなしき女と男のハーモニーフォーラム
稲敷市
- 2月19日 地域再生大賞表彰式
都市センターホテル
- 3月26日 総会 アルテリオ
- 5月28日 介護保険について 明野公民館
《定例会 毎月第一木曜日》

《協力事業》

2015年

- 8月7日 大宝保育園「平和集会」朗読

2016年

- 2月20・21日 劇団明野ミュージカル公演
イル・ブリランテ

《参加事業》

2015年

- 11月22日 つくばホットコンサート
つくばインフォメーションセンター

- 12月10日 クオータ制を推進する会「政治分野における男女共同参画推進法(仮称)等の制定を要請する決起集会
衆議院第2議員会館

2016年

- 2月16日 筑西市男女共同参画いきいきセミナー スピカ
- 4月18日 女性参政70周年記念事業「女性は政治を変えられるか」
東京・憲政記念館
- 5月21日 WANシンポジウム2016
城西国際大学
- 6月12日 女性を政策決定の場に
水戸生涯学習センター

お知らせ

— 主催：はらんきょうの会・筑西市 —

【女性議員と井戸端会議】

～変えたい! 変えられる? 変えなくちゃ!!～

○日時 9月25日(日) ○会場 アルテリオ

女性参政70周年

【日本の女性参政権のあゆみ展】

○日時 9月11日(日)～24日(土)

○場所 筑西市立中央図書館(エントランスギャラリー)

会員・賛助会員募集

会の活動を支えてくださる多くの方々の応援が必要です。

一緒に活動してみませんか。

○会費：一般 年3,000円、学生 1,000円

○賛助会員：年間一口 1,000円

★連絡先：TEL 0296-52-2590 (加藤)

編集後記

年々、活動回数の増加とともに、皆様にお伝えしたい内容も増え、今回のはらんきょうレポートは今までより4ページ増での発行となりました。活動の場が広がっていること、うれしく思います。

朗読劇20回公演に向け、さらに飛躍を図りたいと思います。(M)

(編集委員：安高・飯島 文)

